

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272300738		
法人名	医療法人財団百葉の会		
事業所名	グループホームわたしの家		
所在地	富士市大淵352-2		
自己評価作成日	平成27年7月31日	評価結果市町村受理日	平成27年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyouvoCd=2272300738-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年8月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったり、のんびり、自分らしくを理念とし、お一人お一人の生活を大切に支援しています。職員の認知症に関する知識の向上のため、毎月勉強会を行い、その他研修会への参加も行っていきます。お客様の希望を叶える企画の提案を行い毎月実行しており、その様子をご家族にお手紙と写真にてお伝えすることで、ご家族にも喜んでいただいております。今後もお客様の希望をお聞きし答えてまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

音楽療法の有資格者やフルートを演奏する職員のほかにも音楽療法士やピアノの演奏訪問があり、優しい音が日常的に流れる事業所です。それを裏付けるかのように「以前は業務に追われていたが、此処では一人ひとりとじっくり関わることができるためやりがいを感じる」と、病院から異動してきた職員の発言もあります。管理者も母体病院での勤務経験を十分活かしており、例えば事例検討シートは「今、この人の生命はどちらに向かってどのように変化しているのか?」が問われ、失われた機能、残された機能を洗い出すことが叶っています。このような個別カンファレンスの取組みから「利用者が中心に在る」ことへの実践が進んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示しており、新人職員・中途採用者には管理者より教育している。	院内講習は細かいものも含めると20余あり、また法人研修に本年予定されているのは現時点で40名を超えています。一昨年対比でおおよそ3倍に増えた学びの機会により理念の実践が確かなものになっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	いきいきサロン・つぼみの会へ参加している。地域美化活動には職員が参加している。2ヶ月に1回民生委員、地域包括の職員と会議が行えている。	七夕では笹の葉や短冊を準備し、子どもたちを迎えています。飾りつけ一緒におこない、歌も飛び出して賑わいのある1日を過ごすことができました。音楽療法の定期訪問や家族によるピアノボランティアもあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小・中・高校生のボランティアを含め福祉体験の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を行えている。会議内容については、会議議事録をもって職員周知できている。	大半のメンバーが土日や夜間が難しいこともあり、平日の昼間執り行っています。民生委員からは地域情報がより詳しく提供され、いきいきサロンやつぼみの会ならびに日常の外出企画へと盛り上がりを見せています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1度の運営推進会議に介護保険課の方の参加がある。相談があればその都度連絡をしている。	疑問があればすぐに市担当者に相談していて、新任の管理者であっても丁寧に応じてもらっています。介護相談員の来訪もあり、また事業所のヨコのつながりをつくる連絡会を10月当事業所でおこなうことになっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在ミトンを必要と思われる利用者に対し随時話し合いを行いミトンを使用しない方法で対応できている。	毎日のミーティングで身体拘束を防ぐための協議がおこなわれ、委員会活動としても毎月1回話し合いがあります。また、どの職員も時と場所に応じた言葉を選べるよう、倫理に関する勉強会をおこなっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修参加し職員の教育を行い、また職員との面談にて職員のストレスに対応している。日常の中では入浴時全身のチェックをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、会議や勉強会にて伝達講習をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を頂きご家族様、本人に充分説明をしている。また質問等あれば連絡いただけるようご家族にお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の要望には迅速に対応し解決できている。	担当者が写真入りの便りを家族に毎月送付しています。「職員が頑張りすぎていないか心配」「私に任せてくださいといった仕事への自信を感じる」と、家族アンケートに綴られた言葉からは温かな信頼が覗えます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月運営会議や全体会議にて職員の意見提案を聞き反映している。	もともと「よいケアをしたい」という職員ばかりであったので、昨年度から増えている研修会で更に活性化されています。所内研修では付箋紙利用のブレインストーミングの導入で考える力が養われ発言が高まっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に面接を行い目標に向け見直し評価を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加を促し、一人ひとりの技術向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡会に管理者が参加し他事業所との意見交換を行い、サービスの質向上に努めている。GH交流会実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に生活状況の把握に努め、ご家族やご本人と対面し要望等を聞き、安心して過ごして頂けるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族へ密に相談連絡をし要望や困りごとの傾聴を行い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況把握について、ご家族と情報共有を行いながら支援見極めを行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の席の配置に配慮し、職員も利用者との馴染みの関係となれるようなケアを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便り発行を実施、担当職員より、日々の様子を報告している。ご家族面会時には管理者、職員より日々の様子をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人との手紙や、電話のやり取り等行える様に職員支援を行えている。	婦人会主体のいきいきサロンは毎月、またつぼみの会では歌声を披露してのふれあいが職員支援により定着しつつあり、顔なじみから声をかけてもらえることが愉しみとなっています。知人、友人との書簡も続いています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	企画や歌の会、作品作り等1・2階の利用者と共同にて行い関わりが持てるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されたご家族が職員に会うため、ホーム来訪して下さり、ホームでの思い出を話して下さったり、ご家族の相談支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしへの希望や思いを伝えられない利用者に対してはご家族へお聞きしサービスの提供を行っている。伝えられる方に対しては、その都度お聞きしプランや企画等に反映している。	「スターボックス行きたい」という小さな声にもすぐ応えることができる外出企画が充実しています。普段と違う空間では利用者同士のやりとりも変化して、見たことのない表情がでることで職員も功奏を実感しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ご家族へ詳細にアセスメントを取り職員へ展開している。経過についてはケアマネより過去の経過を聞き把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントや生活記録、バイタルチェック表より現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時にケアマネージャーや計画作成担当者よりご家族へ希望をお聞きする。答える事ができる利用者については、ご本人よりお聞きしている。	担当職員が作成したケアプラン評価シートと計画作成担当者によるモニタリング評価をベースにカンファレンスを開いて原案を作成しています。利用者の発語がそのまま計画書にあることで分かりやすい文面になっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送りに、気づき等を記載し、職員間にて情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急変時など、ご家族へ連絡し、他医院への職員同行など柔軟な対応を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域いきいきサロン・歌声サロンへの参加、児童クラブの子供達との交流など地域とのつながりを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回ご家族、ご本人の同意を得て訪問診療を受けている、体調不良時は、ご家族に連絡をし、かかりつけ医受診を行う、受診後にもご家族への連絡を行い結果を伝えている。	目前にある母体病院を筆頭に医療資源が豊富な中、専門科には職員が付き添い、訪問診療・受診記録を通じて受診状況が全職員に伝達されています。「近いため速やかな対応でとても安心」との家族の声もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護記録シートにて日常の様子や、相談を記録し、2週間に1度訪問看護師に見て頂く、日勤リーダーが対応し管理者・職員へ伝達を行う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者に体調の変化がある際は、随時かかりつけ医に相談、指示を仰ぐ又、入院時には入院先へ職員お見舞いに行き、看護師や相談員と連絡や情報収集を行い早期退院へつなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医よりご家族へ、管理者・職員同席にて話し合いを行い、終末期の方針を決め、看取りプラン作成を行っている、看取りに関しての地域との連携については、今後の課題である。	食事ができないことで心配された利用者も回復し、現在は対象となる人はいません。看取りアンケートにより職員意見を収束したうえで看護師から具体的な講話を受け、課題と方向性を明確にしたという秀でた取り組みもみられます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の事故対応については、事故発生マニュアルを活用し、職員へ伝達指導を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との防災訓練は12月参加予定である、湖山リハビリテーション病院と協力体制を取り合同にて防災訓練を実施した、今後も研修参加し対応策を身につけて行く。	有事には目前にある母体病院へ避難することになっているため、防災委員が係る院内会議に出向いています。消火器の使用期限やスプリンクラーの機能は毎日防災チェックをおこなうことで、意識を高めています。	地域の防災訓練へ参加することを運営推進会議で発表したとのことですので、実現の運びとなることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声掛けや、見守り等羞恥心やプライバシーに配慮している。利用者の立場になって、言葉掛けが行える様に研修や申し送り等で職員へ教育・伝達を行っている。	ほぼ同調できていますが、中には自身のリズムが先立つ職員もいるため、管理者が都度指導しています。羞恥心を感じていることが推測できる利用者には事業所側の配慮で同性介助をおこなうケースもあります。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のなにげない会話から、利用者の思いや希望を汲み取れる様に、コミュニケーションを取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて、職員もゆったりと関われる様に心がけている、入浴希望や、利用者の声を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者希望にて病院併設の美容院に出向いたり、美容師がホームへ来訪して下さる、服もその日の天候や気分に合わせて声掛けや配慮をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	企画食や選択食日あり、目で見ても楽しめるメニューを企画担当・食事担当が中心となり考案している、食事準備や片付けは利用者が進んで行って下さっている。	メニューも食材も共に業者からのものですが、季節の野菜を味付けを替えて上手に取り入れていて、栄養バランスもよいものとなっています。ボードに描かれたクリームパフェがおやつへの期待を大きく膨らませていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分低下時申し送りにて職員伝達を行い、利用者の状況把握を行い早期に主治医へ相談を行い対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に努めており、誤嚥のリスクがある利用者に対して洗口液、ガーゼ使用にて口腔清拭を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンを知り、本人の要望に合わせて対応を行っている。オムツ使用している方にも日中、夜間等使い分けを行っている。	失敗しても安易におむつに移行することなく、「大丈夫ですよ」と本人の気持ちに寄り添っています。各室にコールがないので換気扇の音量にも気遣い、居室で過ごす利用者の様子にも注意を払っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	カスピ海ヨーグルトにオリゴ糖をいれヨーグルトドリンクの提供を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に添える様、希望日には予定を問わず入浴していただいている。	毎日の人や夕方からの人もいて自由度の高い入浴環境がつくられています。黴が生えやすいこともあり、結露がないよう拭き上げにも気配りしていると察せられる清潔な状態を確認しました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況に応じた休息への対応を行っている。居室の室温や湿度に配慮し対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルにて保管し変更時は申し送りノートに記入すると共に、職員へ注意点等の伝達をおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご希望に添うよう支援し、家事等手伝っていただいた場合は感謝の気持ちを伝え、役割を感じて頂ける様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出企画をご家族にも参加して頂ける様声を掛けさせていただいている。散歩に行きたいという希望が多くあるため職員が付き添い戸外に出るよう支援している。	おやつやちょっとしたものを買出しに出掛けることを習慣とし、記録を頼りに同じ人が重ならないよう調整されています。会話や関わりから散歩や外出企画に至っていて、特段回数や場所は限定してはしません。	あくまで自主性を重んじているため、心身状態によって回数に偏りがないか、一度数値化して確認することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	7月外出企画にてイオンお買い物ツアーを行い、ご本人の欲しい物を購入。週1回の食品の買出しにお客様にも同伴していただき好きな物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙はポストが病院にありスムーズに対応できている。電話の取次ぎに関してもその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁面に力を入れており四季が感じられるようにしている。個別レクリエーションが行える様準備中である。	湿度が高いため温・湿度を日に2回記録し、週1回浴室の黴取りのほかエアコンのフィルターは月2回洗っていて、空気の清浄化に努めています。少し数を減らしたことで居心地がよくなったのか、コーナーに置かれた長椅子利用が復活しています。	1階共用空間の蛍光灯の修理、裏手(日陰となるエリア)の不燃物の片づけが予定通り進み、さらにトイレ照明の傘の埃といった細かな箇所に至るまで美化への取組みが進むことを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム外にはベンチが置いてあり、ホーム内にもソファが置かれているため利用者同士や職員とのコミュニケーションの場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には自宅で使っていた馴染みのものを持参して頂ける様ご家族におねがいはしている。	床に絨毯、畳を敷き、布団や炬燵の生活を続ける利用者もいて、その人その人の趣や意向を大切にしています。ラジオやテレビも持ち込まれ、独りでゆっくり寛ぐ時間をもつ人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が自立した生活が送れるよう、動線には危険箇所がないかの確認をし、安全に生活して頂ける様努めている。		